

# 虚空

太田衣緒

登場人物

前野

ゴジ

モモ

助監督

八尾

記者

父

母

監督

女優1  
(後の桜純子)

女優2

女優3

女優4

女優5

女優6

女優7

女街

冬。公園。舞台上には、二人掛けのベンチが二つ、並んで在る。片隅に、忘れ去られたような錆びた滑り台がポツリと在る。冷たい風が枯葉を走らせる。カラ、カラ、カラ・・・と、葉が音を立てる。時折、それらに混じってコカ・コーラの空き缶が転がって行く。頑丈なコートを羽織り、マフラーを厚く巻いた女が、ベンチに腰掛けている。女、欠伸をする。あちらから(例えば客席後方から)、男がやって来る。男は急がずにベンチの方へ歩いて来ると、少し手前で立ち止まり、屈み込んで何かを拾う。男は暫くそれを眺める。

女 何かしら？

男 ・・？

女 ドングリ？

男 ああ。

女 似合わない。

男 え？

女 貴方とドングリ。

男 そうか？

男 女 男 女  
そうよ。  
踏んじまった。  
潰れちまった？  
ああ。

男はドングりをポケットに仕舞い、隣のベンチに腰掛ける。

男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女  
寒いかな？  
え？  
風が冷たいだろう？  
タイツを二枚履いてるの。  
茶でも買って来るか？  
水筒を持っているの。  
そうか。  
飲む？  
え？  
紅茶だけど。  
シヨンベンが近くなる。  
年取ったのね？  
それなりにな。

男、煙草を取り出して火を点ける。

男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女  
元気か？  
ふふふ。  
何だ？  
普通のこと聞くのね。  
悪いかな？  
いいえ。ただね・・  
これとって話がある訳じゃないんだ。  
そう。  
久し振りだな。  
そうね。  
ふとな・・  
私もよ。  
そうか。

気が付くと、舞台は初冬の浜になっている。  
波打ち際に、女が少し足を開いて立っている。  
女の斜め後ろに、白いパラソルが落ちている。

耳を澄ませると、ようやく波のさざめく音が聞こえて来るようだ。まるで時が止まったかのように、女は海に向かって突っ立っていて、まるで動かないでいる。

と、海の中から一人の男が現われる。

浜へと上がって来たその男に、女はタオルを渡す。

男は受け取ったタオルを首に掛け、女の頭に手を乗せる。

女 魚になっちゃったのかと思ったわ。魚になって、泳いで行っちゃったのかと思ったわ。

男 (微笑んで) 仲間を探そう。

女 どうして？

男 君は寂しがり屋だから。それに、危なっかしい。地図も読めないし、電球も変えられないだろう？

女 努力すれば出来る。

男 君に寂しい思いも、怖い思いもさせたくないんだ。

女 一緒なら、寂しくも怖くもないよ。

男は微笑んだまま、女の体を抱く。

女 痛い。

男 ……

女 狡い。

男 ご覧よ。

女 ……？

男 難民だよ。日本にも、難民が居るんだよ。

女が男の視線の先を見ると、あちらを老夫婦が歩いている。

夫が妻の手を取って、ゆっくりゆっくり進んでいる。

気が付くと、前野はモモから離れている。

前野 ……母を探しています。知りませんか？教えて下さい。母の脇の中に、僕の左の

目玉が埋まっていると言います。母はどうして、そんなことをしたのでしょうか。

僕には分かりません。母はきつと、僕がこうして、いつの日か僕が、その失われた

左の目玉を取り戻しに来ることを予感していたのです。愛ではなく、憎しみを携

えてね。そして僕が、母の黒い黒い、ぶくぶくと泡立った血を流すことを夢見て

いるのです。それは何故か？ええ、会って母に聞いてみますよ。僕も知りたいで

すから…

ゴジ 前野！

前野、振り返る。

ゴジ 映画を撮るぞ。  
前野 映画？ゴジちゃんが？  
ゴジ ああ。話が来た。  
前野 本当に？  
ゴジ 本当だよ。悪いか？  
前野 ううん！悪くない。全然悪くない！  
ゴジ だろうか？  
前野 うん！と言うことは、つまり、ゴジちゃんの初監督作品ってこと？  
ゴジ ああ。  
前野 わーお！  
ゴジ 何がわーおだよ、お前。  
前野 だって、わーおだよ。凄いやんか！  
ゴジ ああ。まあ、わーおなんだけだよ・・  
前野 うん。  
ゴジ ついては、お前にも付き合ってもらいたいんだ。  
前野 いいよ。勿論だよ！  
ゴジ こいつはな、「日本で外人を使って洋ピンをでっち上げる」って企画なんだ。  
前野 ほう・・  
ゴジ 安上がりに儲けようってな。  
前野 へええ。  
ゴジ 今回、お前は役者じゃねえ。スタッフだ。やってくれるか？  
前野 スタッフ・・？何をするの？  
ゴジ お前は外人に強いだろう？だから、通訳とか、あとは運転とかな、色々だ。  
前野 色々か・・分かった。いいよ。やろう、ゴジちゃん！  
ゴジ サンキュー。頼りにしてるぜ。  
前野 うん。傑作作ろうぜ！  
ゴジ ああ！  
前野 タイトルは？決まってるの？  
ゴジ 「センチメンタル・ジャーニー」だ。  
前野 「センチメンタル・ジャーニー」・・良いタイトルだね！  
ゴジ そうか？  
前野 うん。そうだよ！  
ゴジ わーおか？  
前野 わーおだよ！  
ゴジ ははは。

記者が現れる。

記者 ゴジの初監督作品「センチメンタル・ジャーニー」が始まった。まだ日活ロマンポルノが始まる前で、当時としては、なかなか意欲的な企画と言えた。350万円という予算

も、ちよつとした大作の部類に入ったと言う。

前野の部屋。

ちやぶ台で、背中を丸めて紙にペンを走らせている前野。  
その後ろで、ゴジとモモがラーメンを啜っている。

前野 Her name is faucet, you know?

ゴジ いいぞ。

前野 Ohh fuck you man!

ゴジ そうだ！

モモ Faucet って、水道の蛇口？

ゴジ オーライ！

前野 The faucet won't run off. The water is flowing out. Oh my god! Fuck you man!

モモ ファアツツ？

ゴジ 閉まらない蛇口だよ。オーノー！ずーっと開きつ放しの蛇口！オーマイガー！

モモ 何それ？

ゴジ アソコがな、ずーっと濡れてるんだよ。四六時中よ。寝ても覚めても何しても。だから、付いたあだ名が、Faucet！ユーノー？

モモ 品が無いわね。

ゴジ 品なんてあつたら売れねえんだよ、ベイビー！

モモ 女性蔑視だわ。

ゴジ ノーノーノー！蔑視じゃねえよ。実際に、女の三人に一人はそうだって聞いたぜ。

モモ またデタラメ言つて。聞いたことないわよ、そんな話。

ゴジ 本当だぜ。モモは違うのか？

モモ 違うわよ！ちゃんと開けたり閉めたり出来るわよ！

ゴジ おお。それは優秀だな。ベリーエクセレントベイビーだ！

モモ 馬鹿にしないでくれる？

ゴジ 馬鹿にするとは、お前・・・！それはフォーセットを馬鹿にした言い方じゃねえか？

モモ え？

ゴジ まあ、いいさ。でもな、そんな女にムラムラするのが男と言うものだ。

モモ 男という動物よ。

ゴジ チツチツチツ！女もまた、男以上に動物であることは、ちゃんと証明されている。何故なら、フォーセットとは、正にそういうことだろう？

モモ 何がフォーセットよ。勝手に名前を付けるんじゃないわよ。

ゴジ 聞けよ。フォーセットちゃんは、いつもオムツを付けてるんだってよ。

モモ どうして？

ゴジ 漏れちゃうからだろう？

モモ ふうん。この女も？

ゴジ そうさ。スカートの下が膨れちゃってるんだな。

モモ 可哀想。

ゴジ 愛らしいだろう？俺は、ちゃんと取材した事実に基づいて書いてるんだぜ。  
モモ 何処で取材して来たんだろうね？

ゴジ それは言えねえよ。プライバシーについてもんがあるからな。  
モモ 甚だ怪しいもんだわ。

ゴジ イッツチュルーだぜ！どうだ、前野？進んでるか？

前野 止まってるよ。

ゴジ ファアツツ？！

前野 俺、通訳は引き受けたけどさ、翻訳は聞いてないよ。

ゴジ 同じだろう？

前野 全然違うよ。無理だよ、こんなブロークンジャパニーズ。

ゴジ まあ、そう言うな。大体で良いんだよ。ちゃんと字幕が入るからな。役者に雰囲気伝わればオーケーだ。

前野 それが難しいんだよ。

モモ その字幕も、やっちゃんの仕事だったりして。

ゴジ おっ！勘が良いな。やはりモモは賢い娘だな。

前野 嘘だろう？

ゴジ まあまあ、見えない先のことは考えずにだな、一つ一つの前の山から乗り越えて行こうぜ、前野君。

前野 駄目だよ、ゴジちゃん。俺、自信無い。

ゴジ そこがお前の良いところだよ。

前野 え？どういうこと？

ゴジ (モモに)なあ？

モモ また騙したのね？

ゴジ 人聞き悪いこと言うなよ。

モモ ほら、どんどん背中が丸まって行く。

ゴジ おお、どうした、前野君？自信を持ち給え。

前野 自信は無い方が良いんじゃないんですか？

ゴジ そうさ。元気を出し給え。

前野 自信は無くても元気は出るんでしょうか？

ゴジ さあ、どうでしょうか？

モモ ちよつと寝たら？

ゴジ あーあ(大きく欠伸をする)・・・そうだな。

モモ ゴジじゃなくて、やっちゃん！

ゴジ え？

前野 いいよ。もうちよつとやってみる。だって、間に合わないもん・・・

ゴジ そうだ！その意気だぞ！

モモ やっちゃんを殺す気なの？

ゴジ いいか？アートっちゅうのはな、極限状態から産み出されるもんなんだよ。

モモ また始まった。

ゴジ 俺等が今産み落とそうとしてるのは、デッカいアートの神聖なる赤児よ。こいつで世の中

をひっくり返すんだ。なあ？

前野 時に邪魔になって、捨てたいのに捨てられないもの、何だ？

ゴジ うん？

前野 責任感。

モモ 肩でも揉みなさいよ。

ゴジ え？

モモ やっちゃんの肩を揉んで差し上げなさいって言ってるの。

ゴジ それはモモの仕事だろう？

モモ どうしてかしら？貴方の為に責任感を背負われているのよ。

ゴジ アートには計り知れない責任がついて回るんだよ。

モモ その責任を、か弱き一人の肩に押しつけるんじゃないって言ってるの！

前野 ちょっと静かにしていてもえませんか？集中したいんで。

二人 はい・・・すいません。

二人、ラーメンをズルズルと啜る。

前野、二人を見る。

二人 ごめんなさい。

前野 ごめんで済むなら警察いらないんだよ。

ゴジ そうだ！

前野 ……

ゴジ ……そもそも、この腐敗した警察組織が、…

モモ ごめんで済ませて職務を放棄しているのであります。

ゴジ 然るにこれを国民が認め…

モモ 何と！？

ゴジ つまりつまり…！

モモ これは警察の問題のみならず…

ゴジ 日本国全体を侵す大問題なのであります。

モモ 犯罪者が…

ゴジ ごめんなさい。警察官が…

モモ ごめんなさい。政治家も…

前野 ごめんなさい。みんな揃って…

三人 ごめんなさい。

前野 よって…！

三人 警察バイバイ、グッドバイ！

そつと助監督が現れる。

助監督 あのう…

ゴジ 何だよ？



助監督 そろそろ良いですか？  
ゴジ それはこっちの台詞だよ。  
助監督 あ、すいません・・・  
ゴジ ショーンは来たのかよ？  
助監督 まだです。  
ゴジ 何してんだよ？  
助監督 さあ・・・寝てんじゃないですか？  
ゴジ あ？！  
助監督 電話しても出ないです。  
ゴジ 何回電話したんだよ、お前？  
助監督 二回です。  
ゴジ 出るまで掛けるよ！  
助監督 はい・・・  
ゴジ 千切れるまで掛けるよ、馬鹿野郎！  
助監督 何がですか？  
ゴジ あ？  
助監督 何が千切れるまで掛けたら？  
ゴジ 電話線だろう？馬鹿野郎！  
助監督 あ、はい・・・  
モモ はい、じゃないでしょ？  
助監督 え？  
モモ はい、と思っただいしょ？  
助監督 あ、はい。  
ゴジ あ？！  
助監督 いや・・・  
前野 千切れないもんね？  
モモ 千切れたら掛からないもんね？  
助監督 はい。  
モモ 私が掛けてあげようか？  
助監督 え？  
モモ 今からテストするんでしょ？  
助監督 はい。助かります。  
前野 お姉ちゃんの声の方が、ショーンも目覚めが良いかもな。  
ゴジ むんむんフリフリに頼むぜ。  
モモ 何がよ？  
ゴジ お色気ジェットだよ。  
モモ 出たらね。  
助監督 何がですか？  
ゴジ あ？  
助監督 何が出たら？

モモ ショーンがよ。

助監督 ああ、なるほど・・来たら一発で決めないと。一回分しかフィルム無いんで。

ゴジ フィルム、フィルム・・お前も好きだな。

助監督 好きで言ってるわけじゃないですよ。

ゴジ じゃあ、何だよ？

助監督 つまり・・カット割ってもらえれば楽なんですけどね・・

ゴジ 馬鹿か、お前？それじゃ、どこにも緊張感ねえだろうが？

助監督 必要ですか、緊張感？

ゴジ 殴るぞ。

助監督 すいません。

前野 無駄だよ。槍が降っても、ゴジはやると言ったらやるんだから。

助監督 槍が降ったら怪我しますよ。

前野 まあね。

助監督 僕も心を鬼にして言ってるんだけどなあ・・

ゴジ そんなに心配なら貰って来いよ。

助監督 え？

ゴジ フィルムだつて金だつて、調達するのが助監督の仕事だろう？

助監督 盗んで来いと？

ゴジ てめえで考えろ。

助監督 嫌ですよ。完全に目つけられてるんですから、次行ったら間違はなくしょつ引かれます。

ゴジ だったらグチャグチャ言ってるじゃねえよ。

助監督 だつて、かなりの長回しですよ。失敗したら、全部チャー。おまけに撮り直しも効きません。

ゴジ それがどうした？決めれば良いんだろう、一発で？

助監督 まあ、そうなんですけど・・自分、数字得意なんですよ。

ゴジ あ？

助監督 確率の問題で。リスクを計算すると、多少妥協しても確実に撮った方が賢明かなって・・

ゴジ 知ってるか？賢明に撮られた映画で、面白かったもんなんで一つもねえぞ。

助監督 そうですよね・・

モモ はい、時間の無駄。つべこべ言わずにさっさとやろう！

助監督 はい・・

前野 よし、やろう！

助監督 前野さん、代役お願いします。

前野 オッケー。

舞台は撮影現場となる。

女郎屋のセット。

助監督はダラリとしている女優達に指示を与える。

助監督 はい、やりますよー。

女優達 はい。はい。  
助監督 はいはい、君はこっち。  
女優6 はいはい。  
助監督 そこで座って、斜めにお姉さん座りかな。片手ついてみようか・  
女優6 こう？  
助監督 うん。そうね・・  
女優6 これは？（ポーズを変える）  
助監督 そうする？  
女優6 これも？（また別のポーズ）  
助監督 うん。好きにして。  
女優6 （チエツという表情）  
助監督 で、君はね・・  
女優7 私？  
助監督 うん。ここら辺かな・・  
女優7 ここら辺ね（自分のテリトリーを確かめる）。  
助監督 うん。そうそう。いいね・・  
女優7 何がかしら？  
女優6 （さあ？の表情）  
女優4 私、顔映るんですか？  
助監督 顔？分かんないよ、そんなの。  
女優4 分かんないんですか？  
助監督 分かるわけないだろう？やってみないと。  
女優7 あんた、助監督でしょ？  
助監督 それがどうした？  
女優6 何で分かんないのよ？  
助監督 え？  
女優7 何でそんな簡単なことが分かんないのかって聞いてんのよ。ねえ？  
女優6 そうよ。  
女優5 （鼻で笑う）  
助監督 あのなあ、今からやるのは撮影じゃないんだよ。戦争なんだよ。  
女優5 （鼻で笑う）  
助監督 何が可笑しいんですか？  
女優6 ちゃんちゃら可笑しいわよ、あんた。  
女優7 ははは。  
助監督 いいか？此処は戦場なんだぞ。予測出来るような甘っちょろいもんじゃないんだよ。  
女優6 命懸けなんだよ。Σ出したら殺されるぞ。  
女優4 誰にですか？  
助監督 ゴジさんにだよ！  
女優達 キャー！

助監督 (耳を押さえて) キャーじゃないよ。  
女優7 キャーだもんね。  
助監督 あ？  
女優7 あたし達の台詞。  
助監督 ああ、そうだな。練習な・・  
女優4 でも、困るわ。  
助監督 何が？  
女優4 それによって色々あるんです。  
助監督 それって？  
女優4 だから、顔が映るか映らないかですよ。  
女優5 どこに顔があるんだろうね・・  
女優2 ははは。  
助監督 ははは！  
女優6 でもアンタ馬鹿よ。  
助監督 え？  
女優6 女優は顔が命なのよ。どんな顔でもね。  
助監督 生気なこと言ってるんじゃないよ。  
女優達 キャー！  
女優5 アンタの顔もどこにあるんだか教えてご覧よ。  
助監督 え？僕？・・ここです、ここ！  
女優5 どこだって？見えないよ！  
女優2 ははは！  
助監督 (耳を押さえて) はい、君！君だよ、君！こっち来て。こっち。  
女優2 はい。  
助監督 うん。じゃあ、君は立ってようか。とりあえず。  
女優2 とりあえず？  
助監督 何？  
女優2 とりあえずってことは、変わる可能性もあるんでしょうか？  
助監督 そりゃね。状況によってね、色々変わって来るだろう？  
女優2 そうなんですか。  
助監督 何？不満？  
女優2 いいえ。  
助監督 何年やってんだよ？  
女優2 二十と一年。  
助監督 だったら分かるだろう？いい加減。  
女優7 彼女は真面目なの。  
助監督 あ、そう・・はい、次。君、そう、君ね。君はこっちな。  
女優1 (静かに従う)  
助監督 うん、そう・・そうね、そうですよ。  
女優達 (横目で睨む)

助監督 君は良いよ、他とは違う。優秀だよ、優秀。素直ですね。素直が一番・・えーと、次、あなたね。ほら、あなた。

女優5 あたしかしら？  
助監督 そうです。

女優5 何かしら？

助監督 何かしらじゃないでしょ・・

女優5 ・・？

助監督 こっちです。

女優5 (静かに従う)

一同 ・・

女優3 はい、君はどっちかな？

助監督 うん？

女優3 待ちくたびれちゃったよ。

助監督 どうもすいませんね。

女優3 知ってるかい？あたし達みんな、名前があるんだよ。「君」なんて名前じゃないよ、あたし達。「君、君、君、君・・」誰のこと呼んでんだか分かりやしなないよ。

助監督 すいませんね。でも、いちいち覚えていられないだろう？

女優3 聞いたかい？

女優達 聞いたわー！

女優3 いいかい？有能な助監督は全員の名前を覚えてるよ。例え百人キャストが居ようがね。

女優7 そうよ。

助監督 はいはい、どうせ俺は無能ですよ。

女優7 あら、分かってんじゃない。

助監督 ちえつ。

女優6 じゃあさじゃあさ、せめて役名で呼んでみなさいよ。それも覚えてないんでしょ？

助監督 え？

女優3 さて、あたしの名前は何でしょう？

助監督 ・・女優6。

女優3 ブー。

助監督 女郎7。

女優3 残念でした、女郎サーティーンだよ。

助監督 ああ、そう。それは失礼しました。

女優7 じゃあ、私は何でしょう？

助監督 あのなあ・・！

女優7 何よ？聞いてやろうじゃないの。言ってみなさいよ。

助監督 何だよ、みんな揃って・・何でもねえよ。それどころじゃねえんだよ。

女優7 ですってー。

女優6 感じ悪いねえ。

助監督 いいか？君はここだよ、ここ。女郎サーティーン。

女優3 はいよ。

助監督 ふう・・・これで、と・・・  
女優4 あのう・・・  
助監督 何？  
女優4 私は？  
助監督 知らないよ。ごめんなさい、分かりませんよ。  
女優4 そうじゃなくて、結局私はどうなったんでしょう？  
助監督 え？  
女優4 まだ指示をもらってないわよね、私？  
助監督 あ、そうだった？・・・じゃあ、君はこっちで、こうかな？いい？  
女優4 はい。こっちで、こう・・・  
助監督 はい、そう。  
女優4 女郎セブンティーンです。  
助監督 え？  
女優4 私はセブンティーン。  
助監督 ああ、はい。分かりました。  
女優7 ねえねえ・・・  
助監督 何だよ？  
女優7 良いの？  
助監督 何が？  
女優7 (女優5を見る)。  
助監督 え？  
女優6 あまり目立たないように思うけど。  
助監督 知らないよ。好きにしてよ。  
女優7 何よ、それ？  
助監督 目立つも目立たないも無いだろうが。  
女優2 そうなんですか？じゃあ、こっち来ます？こっちの方が目立つような気がする。  
女優6 あんた優しいねえ。  
女優2 分からないけど・・・でも、あの柱が邪魔かしら？  
女優5 ・・・・  
女優4 顔が映るかどうかは分からないけど、良かったらこっちも空いてるわよ。  
女優5 ・・・・  
女優4 もしもし？  
女優5 結構よ。  
女優4 チェッ。お高く止まってるわね。  
女優2 仕方ないですよ。  
女優4 ちよつとだけ鼻の筋がき、通ってるからってさ・・・でもそんなに違う？ドングリの背比べでしょ？  
女優2 昔は良いところまで行ったらしいですよ。台詞を喋ったことあるって。  
女優6 止しな。あんまり怒らせない方が良いでしょう？  
女優4 え？

女優7 自分が主演女優だと思ってるんだよ。  
女優4 あら、まあ！  
女優2 あの噂って、本当なんですか？  
女優7 え？  
女優2 昔、事件を起こしたって。  
女優4 何よ、それ？  
女優6 あんた、何処で聞いたの？  
女優2 前に現場で、ちよつと・・  
女優6 駄目よ。忘れなさい。黙るときなさい。  
女優2 え？  
女優4 何、何？教えてよ。気になるじゃないよ。  
女優7 知らぬが仏って言うでしょ？  
女優4 まだ仏にはなれないわ。  
女優7 聞いたら仏になっちゃうよ。  
女優4 え？どういふことかしら？  
女優2 役を争ってた子に怪我を負わせたらしいです。  
女優6 しーっ！  
女優4 何よ、それ？本当に？  
女優7 普通だったらよ、そんなことしたら永久追放よ。と言うよりか、自ら足を洗うでしょ？  
女優4 そうね。  
女優7 ところが見てよ。何事も無かったかのように、ケロッとしてんのよ。  
女優4 あら、嫌だ・・鳥肌立って来たわ、私。  
女優6 だからさ、そつとしときな。  
女優4 ええ。そうするわ。  
助監督 お待たせしました！それでは皆さん、段取り追って行きます！ケン役は前野さんで確認  
します！

前野、コクリと頭を下げる。黒い眼帯を付けている。  
その後ろに、女衛役がスタンバイしている。

女優7 何よ、またあの大根役者？  
女優6 雰囲気掴めないのよね、代役だと。  
助監督 どうでしょう？諸々宜しければ声下さい！  
ゴジ カメラオッケー。  
女衛 女衛オッケー。  
前野 代役オッケー。  
ゴジ 演出部は？  
助監督 オッケーです！では行きます！もう一度言いますが、ワンカットですから！  
ゴジ 分かってるよ！  
助監督 はい・・つまり、長いですよ！

ゴジ お前の話がな！

助監督 すいません・・・では、まずは僕が段取りを声に出してゆっくり確認して行きます！ゴジさん、何かあったら言って下さい。

ゴジ あいよ。

助監督 では、行きます！シーン29「女郎屋での決闘」！・・・よい！

ゴジ ・・回った！

助監督 アクシヨン！

前野がゆつくりと駆け、追手である女衞から逃げる芝居をする。

助監督 もつとゆつくり、前野さん！

前野、殆どスローモーションのように駆ける。女衞も続く。

助監督 カメラはこのまま50メートル程、二人を押さえて行きます！砂に足を取られて転びながらのアクションです！

前野、転んでみたりする。女衞も続く。

助監督 ・・はい、で、ここですね！ここで女衞が短刀を投げるのですが・・・はい、この瞬間、カメラは女衞の斜め前に回り込んで・・・

15

ゴジと助監督、回り込む。

助監督 女衞の全身くらいですかね？捕らえます・・・はい、ここで女衞、投げる・・・はい、この時、演出部はケンの足に短刀を刺し、同時にズボンに血糊を付けます、僕が投げられた短刀を回収します・・・はい、カメラ、ケンへパンします・・・はい、大丈夫ですね？刺さってますね？血もついてます。演出部もハケてます・・・？

ゴジ オッケー！

助監督 はい、ここでまたカメラは二人を捕らえます。負傷したケンに女衞追いつき、のし掛る・・・で、ここで取っ組み合い・・・ケン、足に刺さった短刀を抜き取る。悲鳴・・・

前野 ああああ！

助監督 女衞、ケンの短刀を奪おうとする。激しく取っ組み合い・・・で、この流れで、良きところ、カメラは回り込んで、女郎屋の窓を背景に二人を捕らえる形にもって行く。

ゴジ 入ってるぞ！

助監督 すいません！・・・で、一同カメラの動きを見ながら息を合わせて移動しつつ・・・ここで！カメラ寄って・・・ケンが女衞に一撃！

前野 うううん！

助監督 はい、血糊！・・・はい、ハケた！パン！・・・で、カメラ引いて！・・・ケン立ち上がって、女郎屋の窓に向かう・・・女衞追う・・・振り払い、窓硝子を短刀の柄でブチ破る。本番は



女優達 本先に割り入ります。割れる予定です・・・はい、割れました！ガシャーン！はい、キヤー！

助監督 ケン、割れた窓から中へ飛び込んで行く・・・女衛、必死に追って中へ・・・ここでもう一度・・・！

女優達 キヤー！

助監督 はい、このままカメラも僕等も皆中へ入ります。追って行きます、追って行きます・・・えー、ここで照明点きます・・・

ゴジ とつくに点いてる！

助監督 そうですね、カメラが入ると同時です！・・・えー、ここからは、割と引きで、なるべく部屋全体を押さえて行きますが、自由に動きますんで、臨場感ですんで、スタッフはカメラを追って下さいね、映っちゃ駄目ですよ・・・

ゴジ 入ってる！

助監督 近藤！・・・えー、続けます・・・はい、ケンが女郎達を調べて行きます・・・脇をですね、確認ですね・・・はい、近寄られたり、触られたりしたら、悲鳴ですね・・・逃げて下さい。

お芝居して下さい・・・で、またまた女衛が後ろからケンを捕らえます・・・ここです、この子の脇に目を止めた時、はい、ここで女衛がケンから短刀を奪い返し、ケンの頬へピシャッ！・・・はい、血糊！・・・はい、パンして・・・！

ゴジ 入ってる！

助監督 近藤！

ゴジ お前もだよ！

助監督 すいません！

ゴジ 馬鹿野郎！

前野 ここ、段取り変えた方が良くないんじゃない？

助監督 え？

ゴジ お前、絶対映るだろう？

助監督 はい。

ゴジ はいじゃねえよ。映るなら考えろよ。

助監督 はい・・・

ゴジ どう頑張っても、お前は付けられねえから。

前野 今のカメラの動きだと、誰も入り込めないよ。彼女に付けてもらえば良くないかな？

助監督 彼女？

ゴジ スタッフだけじゃねえんだよ。

助監督 あ、はい・・・

前野 ケンが彼女の脇を見た時に腕を上げるだろう？最初から彼女の手に仕込んでいて、ぐつたりしてもたれ掛かる芝居で出来るんじゃないかな？

助監督 いつ？

ゴジ カメラがケンの後ろに来た時だろうか？

助監督 分かりますかね？

ゴジ 分かるよな？見えてんだから。

女優1 やってみます。

助監督 じゃあ、それをお願いします。

ゴジ 血糊！

助監督 血糊！

ゴジ あと前野、手を上げるの、もつと乱暴にやってくれ。

前野 乱暴に？

ゴジ 気を遣うな。ケンにそんな余裕はねえぞ。

前野 はい。

助監督 では、少し前から返します！えー、ケンが彼女の脇を見るところからですね。諸々宜し

ければ、声下さい！

ゴジ カメラオッケー。

女術 女術オッケー。

前野 代役オッケー。

助監督 演出部もオッケーです！

ゴジ 本当だな？

助監督 恐らく！

ゴジ ふざけんな！本番だと思ってやれ！

助監督 はい！では、行きます！本番です！

ゴジ テストだよ！

助監督 本番のようなテストです！血糊、付いてますね？

女優1 はい。

助監督 それでは、前野さん、お願いします！

前野、女優1の腕を勢良く突き上げる。

女優1 痛っ・・・

前野 ごめ・・・

ゴジ そんな台詞はねえぞ！

助監督 続けて下さい！

前野、気を取り直して、吸い付くように女優1の脇を見る。

助監督

はい、ここで女術が後ろよりケンの短刀を奪います。そしてピシヤッ！・・・はい、この時ですね、女はケンにもたれるようにして・・・ケンの頬に・・・付いてますね。大丈夫です！・・・で、カメラ回り込みました・・・血が出ています！・・・はい、ここからまた取っ組み合い開始！・・・この隙に女郎達は逃げ去ります・・・はい、行って下さい、行って下さい、さっささささ・・・！はい、ここで女術の台詞がありますが、飛ばしましょう・・・はい、台詞言いました・・・で、ケンが渾身の一撃・・・ここで鼻血！派手に鼻血！・・・カメラ追って・・・！

ゴジ

遅えよ！

助監督 すいません！続けます！・・ケン、女術に馬乗り・・ボコボコにします・・やがて女術はくたばって・・はい、呼吸を整えながら、ケン、正気を取り戻すと同時に絶望します。絶望です・・で、女が動く。動いて下さい・・足を少しだけ。少しで良い。

女優1、足を僅かに動かす。

助監督 ここで、ケンは女に振り向き・・ここは台詞もらいましょうか・・下さい。

女優1 フーアーユー？

前野 ケン。

女優1 ケン？

前野 (片言で) オレのオフクロ、ここにイルってキイタ。

女優1 名前は？

前野 シラねえ。ヒダリのワキ、キズがある。

女優1 ユアマム？

前野 オレのヒダリのメダマ、そのナカにウマッてる。

女優1 あんたの目玉が？

前野 オレはソレ、トリカエシにキタ。はるばるウミをワタッテ。

女優1 ・・

前野 オレ、ウマレタトキからカタメ。ウマレテこのカタ、カタメでしかセカイみてねえ。だから、スゴクゆれてる。マイニチふねにノッテルみたい。アラナミ。

女優1 あんたのママは、ここには居ないよ。ノーバディー・ヒア！

前野 そのヨウダ。

女優1 可哀相だけど。

前野 イイ。フリダシ、モドッタだけ・・

ゴジ カット！

助監督 ・・どうでしょう？

ゴジ カット割ろう。

助監督 え？どこで？

ゴジ 女術を打ちのめすところまでだ。

助監督 というと？

ゴジ 女が足を動かすところで割る。

助監督 あ、なるほど・・

ゴジ 何だ？

助監督 いえ・・もうちょっと前かなって・・

ゴジ どこで割れるとこあるんだよ？

助監督 さあ・・

ゴジ 欠片もねえだろうが。

助監督 はい・・

ゴジ あと、ケツ、もっと膨らませろ。

助監督 オムツですか？  
ゴジ もっと強調しろ。  
助監督 はい！  
ゴジ 次は本チャンのスピードで行くぞ。  
助監督 今の三倍位ですかね？  
ゴジ 十倍だろう？馬鹿野郎！  
十倍だそうですね！皆さん、諸々スタンバイお願いします！女衞を打ちのめして絶望するところまでです！絶望です！演出部、オムツ倍増！

と、辺りが鋭く白く光り、遠くで爆発音が轟く。  
舞台は前野の部屋となる。  
モモが縁側に腰掛けて涼んでいる。  
モモ、欠伸をする。  
前野が帰って来る。

モモ お帰り。  
前野 ただいま。  
モモ 遅かったね。  
前野 うん。  
モモ ご飯食べた？  
前野 ううん。  
モモ ラーメン作る？  
前野 いいや。もう寝るわ。  
モモ お腹空いてるんじゃないの？  
前野 うん。でも眠いから。  
モモ 唯一の休みだったのにね。  
前野 仕方ないよ。働ける時に稼がないと。  
モモ そうね。

前野、その場にゴロツと寝転がる。

モモ 駄目だよ。ちゃんと布団で寝ないと。  
前野 うん・・  
モモ 銭湯閉っちゃうから行っちゃった。  
前野 うん。  
モモ やっちゃん何日入ってないの？  
前野 うん・・？四日くらいかな？  
モモ くっせー。  
前野 仕方ないだろう？  
モモ でもくっせー。

前野、モモの鼻を抓む。

前野 遅くまで起きてたな。  
モモ そう？  
前野 モモも仕事だったんだろう？  
モモ うん。  
前野 疲れてるんじゃないの？  
モモ 平気。  
前野 待ってたの？  
モモ 違うよ。  
前野 待ってたんだらう？  
モモ 違うよ。  
前野 そう・・あ、モモは？  
モモ 何？  
前野 飯食った？  
モモ お腹空いてない。  
前野 嘘つけ。  
モモ 本当だよ。  
前野 ラーメン。作ろうか？  
モモ 寝るんでしょう？  
前野 そうだけど。その前に。  
モモ 私も眠い。明日早いんだから。  
前野 ごめんな。  
モモ くっついて寝ようかしら？  
前野 臭いよ。  
モモ 息止める。  
前野 死んじゃうよ。  
モモ 口で息する。  
前野 バッカだなあ。

モモ、縁側に干してあったシーツか何かに包まって、前野の隣に滑り込む。

モモ ベタベタする。  
前野 うん・・生きてる証だ・・  
モモ ねえ、見て。風鈴付けたんだよ、あれ・・買ったんじゃないよ。ゴミ捨て場に捨てられてたから拾って来た。気の毒にね・・ちゃんと綺麗に拭いたよ。そう、涙を拭くように優しくよ。ちよつと欠けてるんだけど、危なくないようにテープ貼った。いい音でしょ？  
モモ ・・あれ？・・寝やがった・・

前野の寝息に風鈴の音。  
舞台は車内となる。  
ゴジが助手席、助監督が後部座席に座り、缶ジュースを片手に食パン等を  
食べている。

助監督 こんなこと言ったら、また殴られるかもしれませんけど・・・

ゴジ 何だよ？

助監督 心を鬼にしていますけど・・・

ゴジ だから何だよ？

助監督 完成するんでしょうか、この映画？

ゴジ させてやるよ。

助監督 四人目ですよ。

ゴジ 何が？

助監督 脱落者です。

ゴジ 根性ねえんだよ。どいつもこいつも。

助監督 根性あっても、電車賃無ければ現場来れないですから。

ゴジ 歩いて来いよ。

助監督 時間掛かります。

ゴジ じゃあ、走れよ。

助監督 走る体力、残ってないです。

ゴジ ああ？

助監督 飯食えないから、暫く実家に帰るって。

ゴジ 実家に帰る金はあるのかよ？

助監督 借りましたよ。

ゴジ 糞垂れが・・・！

助監督 照明部のあいつも、ゴジさん怒ってましたけど、三日寝てなかったんですよ。

ゴジ それがどうした？

助監督 ・・つまり、不注意と言うより、意識朦朧だったんじゃないですかね？

ゴジ 意識なんかあったらアートなんて撮れねえんだよ。

助監督 ・・・

ゴジ あいつだけだろ、骨折ったのは？

助監督 今のところは、そうですけど・・・

ゴジ ・・・

助監督 もう一つだけ良いですか？

ゴジ 何だ？

助監督 まだ連絡付かないんですか？

ゴジ ああ。

助監督 もう本当にスツカラカンんです。

ゴジ 必ず捕まえてやるよ。

助監督 捕まえたところで金が出てくりや良いですけど・・・無いから逃げたんですよ？きつ

と・・  
ゴジ そう思うか？  
助監督 はい。  
ゴジ どんだけ撮り終えた？  
助監督 三分の二です。  
ゴジ あと三分の二か。  
助監督 フィルムも無いです。  
ゴジ またフィルムかよ。  
助監督 すいません。でも、フィルムが好きな訳じゃないです。

二人、食パン等を貪り食う。

助監督 (ふと外を見やって) ・ ・ 前野様々ですね。  
ゴジ ・ ・ ?  
助監督 実家の営業車なんですよね、これ？  
ゴジ 機材が沢山積めるだろう？  
助監督 はい ・ ・ 前野さんって、役者なんですよね？  
ゴジ あ？  
助監督 いや、知ってますけど ・ ・ 器用ですよ？  
ゴジ お前とは違えな。  
助監督 はい。何でも出来ちゃいますよね ・ ・ でも、プライド無いんですかね？  
ゴジ プライド？  
助監督 器用って、言葉変えると、便利ってなりますよね？  
ゴジ お前、イッチョ前にあんのかよ？プライドが？  
助監督 え ・ ・ ? まあ、多少。  
ゴジ 見えねえな。  
助監督 そうですか？  
ゴジ そんなもんある奴で、ロクなのいねえぞ。  
助監督 そうですか？

前野が駈けて来て、運転席に乗り込む。

前野 ごめん。お待たせ！  
ゴジ 悪いな。  
助監督 有難うございます。  
ゴジ お前、なに前野より先に飯食ってんだよ？  
助監督 あ、すいません。腹減っちゃって ・ ・  
ゴジ 馬鹿か、お前？  
前野 いいよ。

ゴジ、パンを千切って、助監督に投げ付ける。

助監督 痛い！

ゴジ 痛くねえだろうか？

助監督 あ、はい・・・すみません。これ、どうぞ。

助監督、前野にジュースやパンの入った袋を渡す。

前野 ああ、ありがとう。

前野、缶ジュースを空けて一口飲み、エンジンを掛ける。

助監督 食ってからで良いですよ。

前野 時間無いだろうか？

助監督 まあ・・・

自動車が発車する。

前野、食パンを食い出す。

前野 俺、道分らないから頼むよ。

助監督 はい。

ゴジ ショーンは来るんだろうな？

助監督 と、思いますけど・・・

ゴジ 時間通りにか？

助監督 と、思いますけど・・・

ゴジ もうあいつ帰らせるなよ。

助監督 そうしたいですけどね・・・

ゴジ お前んちに泊めるよ。

助監督 嫌ですよ。

ゴジ 嫌だとか何だとか、言ってる場合じゃねえだろうかよ。

助監督 じゃあ、ゴジさんちにして下さいよ。

ゴジ 嫌だよ。

助監督 え？！

ゴジ 大男が二人で寝たら床抜けちまうよ。

助監督 抜けませんよ、多分。

ゴジ 多分じゃ困るんだよ。お前、責任取れるのか？多分じゃなかった場合？

助監督 取れませんが、抜けませんから。

ゴジ 多分だろうか？

助監督 何畳ですか？

ゴジ 六畳だよ。



助監督 絶対です。

ゴジ あ？

助監督 三畳なら危ないかもしれませんが、六畳なら絶対です。

ゴジ 何でだよ？

助監督 二人合わせても、せいぜい二百キロですよ？五十キロが四人で二百キロですから。六畳間に四人は、よく見る光景です。うち、三畳なんで。

ゴジ いいか？床面を四本の柱で支えるとしたら、面積の狭い三畳の方が頑丈だぜ。

助監督 そうかもしれないですけど、六畳間に四人は当たり前前の光景ですから。

ゴジ 当たり前だと何なんだよ？

助監督 可能ということですよ。

ゴジ でも、より安全の方が良いだろう？

助監督 それに、一人五十キロはかなり痩せ型で計算してますから。女子ですね、女子。

ゴジ お前の計算式は聞いてねえよ。

助監督 と言うより、狭いんです。うち三畳ですから。

ゴジ 何だ、お前？論点を変えるのか？

助監督 ショーンが入ったら動けませんよ！

ゴジ 大丈夫だよ、あいつよく寝るから。

助監督 場所取るじゃないですか。踏んじやいますよ。

ゴジ それくらいで起きねえよ。

助監督 踏みたくないですよ。気色悪いですよ。

前野 もう、煩いな。どっち？ここ、右で良いんだっけ？

助監督 え？・・・あ、はい。右です。

ゴジ ・・・それで？今日のスケジュールは？

助監督 カツカツです。

ゴジ それは分かってるよ。内容だよ。

助監督 あ、はい・・・日没前ギリギリを狙ってラストシーン行きますけど、その前に原発の抜き

のカットを撮ります。今日、抜群ですよ、天気？

ゴジ そうだな。

助監督 ですよ！正午に真上から太陽が射すんで、多分今日は良い具合に陽炎が出るんじゃないかと思えます。なので、正午から一時までの一時間で原発の抜きは撮り終えて、その後、浜までの移動が一時間。二時から準備とテストが四時間です。六時には回し始めないと日が落ちちゃうんで。

ゴジ ショーンの入りは？

助監督 三時で良いですけど、二時って言うてあります。

ゴジ 甘いんじゃないか？

助監督 そうですかね？昨日も遅かったから、端から無理な時間言うより、スレスレ狙った方が可能性高いかなって。毎日毎日、駆け引きですよ。

ゴジ どうでも良いけどよ。来りゃあ。

前野 ショーンも心配だけど、四時間はかなりタイトだな。

助監督 はい。エキストラも百人呼んでるんで、文字通り、映画のクライマックスであると共に、

撮影のクライマックスです。

ゴジ 大丈夫なのかよ？

助監督 何がですか？

ゴジ あの女優陣を、お前ちゃんと捌けるのか？

助監督 任せて下さいよ。

ゴジ 甚だ心配だぜ。毎回揉めてんじゃねえかよ。

あいつ等、本当に小癩なんですすよ。二言目には、ストライキだの何だの。だから言っちゃったんです。いいか？ストライキってのはな、有能な労働者が起こしてこそ意味があるんだぞ、有能な人材に辞められては困るからな、そこで初めて要求が認められるんだ。しかしな、無能な労働者が何を喚こうと、雇用主は痛くも痒くもない。どうぞお辞め下さい、別を探します、幾らでも居るんです、君達の代わりは、しかも君達よりも従順な良き働き手が。だから、さようなら、手を振ってさようなら、だってね。

前野 本当に？

助監督 え？

前野 そんなこと言ったの？

助監督 心の中で言っただんです。

前野 そうだよな。口にしてたら、今頃暴動が起きてるよ。

助監督 鎮圧してやりますよ、そんなもの。

ゴジ どの口が言うだ？

助監督 え？

ゴジ お前、何か勘違いしてねえか？

お前も、お前の言う、ストライキを起こされても痛くも痒くもない方の労働者だと思っぜ。

助監督 え・・・？

ゴジ しかも、情けねえ。言えねえことは思うんじゃねえよ。

助監督 だって、あつちは人数多いですから。それに、あいつ等、前野さんのこと運転手って言うたんですよ。

ゴジ あ？

助監督 失礼でしょう？舐めんじゃねえって言ってやりましたよ。

ゴジ 言わせとけよ。下らねえ。

助監督 これはちゃんと言いましたから。

ゴジ あ？

助監督 舐めんじゃねえって。声に出して。

前野 小さな声で？

助監督 え？

前野、苦笑している。

ゴジ とにかく、今日も時間がねえんだ。しっかりやれよ。

助監督 はい。

ゴジ 一発勝負だろ？

助監督 勿論です。

ゴジ シビれるな。

助監督 ゴジさんがシビれるなら、僕等はビリビリですね。

ゴジ 何言ってるんだ、お前？

助監督 電気ビリビリです。

ゴジ お前、やっぱり変だな。

助監督 そうですか？・・あ、そこ、右！

前野 え？

助監督 右ですよ！

前野 左じゃないの？

助監督 違うよ。もう、馬鹿だなあ。時間無いんだから勘弁して下さいよ・・

ゴジ 何だよ、お前。早く言えよ。

助監督 だって・・

ゴジ 下らないことベラベラ喋ってるからだろ？

助監督 下らないって、ゴジさんが・・

ゴジ いいから早く修正しろよ。

助監督 修正？

ゴジ 軌道をだよ。お前しか分からねえんだろうがよ？馬鹿か、お前？

助監督 ああ・・Uターンです。Uターンしかないでしょ？

ゴジ だったら早くそう言えよ。

助監督 すいません・・

前野 ・・馬鹿かよ？

二人 ・・？

前野 俺が馬鹿かよ？

助監督 え？

前野 俺が馬鹿だって言っただろ？

助監督 あ・・え？

前野 俺が馬鹿かって聞いてんだよ！答えろ！

助監督 ・・どうしました？

前野 ・・答えろ。

助監督 前野さん？

前野 ・・

ゴジ おい。

助監督 はい？

ゴジ お前、謝れよ。

助監督 あ、・・すいません。

ゴジ 俺にじゃねえよ。前野に謝れって言ってるんだよ。

助監督 あ、・・すいませんでした、前野さん。

前野 ……  
ゴジ 悪かったな。

前野、青ざめた顔をして無言でいる。  
と、赤い閃光が射し、再び爆発音が轟く。  
舞台は、浜辺の撮影現場となっている。

女優2 (しくしく泣いている)

女優4 どうしたのよ、あなた？何かされたの？(チラッと女優5を見る)

女優7 ブロークンハートだよ。

女優4 え？何だって？

女優2 オバQちゃんが・

女優4 オバQちゃん？

女優6 照明部に居るでしょう？ちょっとぼっちゃりした、包帯のさ・

女優2 オバQが好きみたいで、オバQのハンカチ持つてるの、いつも。

女優4 ああ、いつも叱られてる子ね？あの子がどうしたの？

女優7 あの子って年でもないのよ。

女優4 そうよね。

女優2 オバQちゃん、小食なの。

女優4 はい？

女優2 いつもおむすび二つとゆで卵だから、お腹空くと思って、お弁当作って来たらね・  
らないって。

女優4 まあ・

女優2 お金が無くてね、いつもお腹を空かせているんだと思ったら、違うんだって。

女優6 だから彼女、さっき二人分お弁当食べたのよ。

女優2 勿体ないでしょ？

女優4 まあね。

女優2 オバQちゃんと同じお弁当食べたかったのに・

女優6 照れてんだよ。

女優2 え？

女優7 恥ずかしがって、いらないうって言っちゃったんだよ。

女優2 そうなのかな？

女優7 多分ね。

女優4 何でいらないうって言うのかしら、あいつ？

女優2 あいつなんて言わないで！

女優4 あら、ごめんなさい。

女優2 知らない人が作った物は食べられないって。

女優6 知らない人？

女優2 私のこと、覚えてないって。

女優7 照れてんだよ。

女優6 恰好つけてんの。  
女優2 (悲しみが盛り上がる)  
女優5 ちよつと静かにして頂戴よ。  
女優6 あ、すいません。  
女優5 ここを何処だと思っただらうね？  
女優6 はあ・・・？  
女優5 神聖な職場なんだよ。素人みたいな世間話は止めてもらいたいね。  
女優6 失礼しました。  
女優5 集中してんだからさ。  
女優6 そうですよ。  
女優4 お言葉を返すようだけど、今は休憩時間よ。  
女優5 何？  
女優4 つまり、休憩してるんだから、何を話そうと勝手じゃないの。でなきゃ休憩にならないわよ。ねえ？  
女優6 ちよつと、あなた・・・

一同に緊張が走る。

助監督 すいません。ション遅れてます。  
ゴジ ふざけるんじゃねえよ！今、何時だよ？  
助監督 四時です。  
ゴジ いい加減にしるよ！  
助監督 すいません。  
ゴジ ・・・  
助監督 あと照明が決まれば行けるんで、とりあえずテスト行きますか？  
ゴジ ・・・  
助監督 行きますね・・・五分後にテスト行きます！お茶でも飲んで下さい！・・・皆さんは、すいません！また位置が変わってしまうとまずいので、そのまま寝ていて下さい！  
女優7 ちよつと、ちよつと、何よこれ？私達はお茶飲めないってわけ？いつまで寝かせとく気よ？もう喉がカラカラよ。砂がさ、口に入って来るじゃないよ。  
女優6 相変わらず段取り悪いわね、あの助監督。  
女優7 ほら、見てよ！  
女優4 何よ？  
女優7 自分だけお茶飲んじやってさ、あの助監督！頭に来るわね！  
女優3 ねえ、起きちやいけないのかね？背中が痛いんだよ。  
女優6 え？  
女優3 要は位置が変わらなきゃ良いんでしょ？この姿勢のまま起きて、この姿勢のまま、また寝たら良いんだよ？少しくらい変わったって大丈夫よね？気付きやしないよね？  
女優6 でも、あの助監督、目ざといのよね。  
女優7 そういふとこだけね。

女優4 バレたら煩いわね。  
女優3 え？駄目なの？  
女優6 そう言えば、あなた大丈夫なの？小耳に挟んだんだけど、ドクターストップって？  
女優3 そうなんだよ。嫌になっちゃう。  
女優2 え？どこか悪いんですか？  
女優3 どこもかしこもだよ。年だね。  
女優2 それは大変じゃないですか。無理しちゃ駄目ですよ。私から言いましょうか？  
女優3 いいんだよ。そんなことしたらさ、役下ろされちゃうだろ？  
女優2 でも・・  
女優3 あたしね、これでもね、天職だと思ってるんだよ。  
女優2 何がですか？  
女優3 女優よ、女優。笑わないでよ。  
女優2 はい。  
女優3 止められないじゃない、ここまで来るとき。出た本数じゃね、阪妻と並ぶよ。  
女優2 へええ！凄い。阪妻って、あの阪妻？  
女優5 他にどの阪妻が居るんだよ？  
女優4 ちよつと止めてよ。泣かさないでよ。  
女優3 この間ね、息子が賞状くれたんだ。  
女優6 何、それ？  
女優3 手作りだね。最優秀片隅女優賞って書いてあった。永年の努力を表彰しますって。心の優しい子なんだ。  
女優2 息子さん、幾つなんですか？  
女優3 三十五。  
女優4 嫌だ、だから泣かさないでよってばあ。お化粧が落ちちゃうじゃないよ。  
女優5 とつくに落ちてるよ。  
女優4 そうなの？早く言ってよ。  
女優3 来月、結婚式するんだ。  
女優4 え？  
女優3 あたしじゃないよ。息子が。  
女優4 あらあ、おめでどう。  
女優3 だから今ちよつとね、髪をどうしようかと思って・・あたし天然パーマだから纏まらないんだよ。  
女優4 そう？でも、ほら、束ねればさ、気にならないわよ。  
女優3 そうかな？  
女優7 ああ、悔しいわね！頭に来ちゃう！  
女優4 もう、何よ？あんまり大きな声出さないでよ。  
女優7 え？  
女優4 泣いたらさ、またお腹が空いたみたい。  
女優7 何よ、貴方？お昼食べなかったの？  
女優4 食べたわよ。食べたけど、もうペコペコだわ。怒る元気も無いわ、私。貴方、元気ね。

女優7 元気じゃないわよ。元気なんてあるわけないでしょ？  
女優4 じゃあ何なのよ？  
女優7 叫んでもいけないとのびちやうって言うのよ。  
女優4 ふうん。  
女優6 こう毎日毎日、永遠と寝転がされてると、さすがにこたえるわね。  
女優3 寝るのは楽な筈なのにね。  
女優6 屋根の下ならね。  
女優4 若ければね。  
女優5 だらしのないじゃないの。そんなこと言ったら、あっちの思う壺よ。  
女優6 え？  
女優7 見てよ！おむすびか何か食べてるわよ！  
女優5 何ですって？  
女優2 此処にもあるんですね、不平等が。  
女優6 許せないじゃないの。  
女優7 断じて許せないわ！  
女優5 皆、駄目よ。気をしっかり持ちなさい。  
女優達 はい！  
女優5 あいつ等はね、私達を試しているのよ。  
女優2 どういうこと？  
女優5 私達は瀕死の民の役なのよ。でも、それは役。私達はプロよ。私達自身が瀕死になる必要があつて？  
女優4 なくてよ。  
女優6 そうだわね。  
女優5 瀕死の役であればある程・・  
女優6 私達自身は精気を漲らせなければならない。  
女優5 そうです。  
女優6 元気を出しましょう。立ち上がらなきや駄目よ！  
女優7 ストライキね？  
女優6 そうよ、ストライキよ、ストライキ！労働者の権利を今こそ主張すべきだわ！立ち上がれ、弱き民達よ！  
女優7 エイエイオー！  
女優6 騙されるな、私達！  
女優達 エイエイオー！

女優達、歌う。

曲は、浅川マキの「かもめ」等が良いと思う。

女優5のソロから始まって、徐々に皆が加わって合唱になり、

最後は女優1のソロで終わる。

助監督 えー、では、ラストシーン行きます！まずは、全体の流れを説明します。ケンが漸く母

親の居場所を突き止めて、この浜へとやって来ますが、その途中で原発が爆発します。前代未聞の惨事ですので、勿論、何が爆発したのか、果たして何かが爆発したのか、爆弾が落とされたのか、誰も何も分かりません。分かりませんが、逃げ惑う人々は水を求めてですね、この浜へとやって来て、そして倒れて行くという設定です。ちなみに、原発であるということは、抜きのカットで説明しています。それでこのシーンですが、抜いたり寄ったり、諸々カットはあるのですが、始めに、通して引きで一発撮ります。その後で、諸々のカットに移ります。大雑把なお芝居としましては、まず、負傷したケンがヨロヨロと歩いて来る。浜にひしめく人々を確認する。それから必死に死者達の中から母親を探す。その中で、女郎屋での娘を見つける。そして遂に、母親を見つけ、脇から目玉を取り出して、自分の目に埋め込む、という流れです。ゴジさん、何かありませんでしょうか？

ゴジ やってみよう。

助監督 了解しました。では、宜しくお願いします！準備はいかがでしょうか？

ゴジ カメラオッケー。

助監督 前野さん、どうでしょうか？

前野 オッケー。

助監督 演出部もオッケーです！では、行きましょう！シーン47「死の浜」、ラストシーン！：

ゴジ よーい！

ゴジ ・・回った！

助監督 アクション！

黒い眼帯をした前野が、ヨロヨロと浜に現れる。

波打ち際に倒れている人々を目にし、一度足を止める。

それから、彼方を見つめ、怒りと困惑の混ざったような表情。

前野、再び歩み出す。

死者達のところまで来ると、倒れた人々を見下ろし、それから女を見つけ  
ては、腕を上げて脇を調べて行く。混乱が、狂気へと変貌して行く。

一人、二人、三人・・調べて行くと、女郎屋で言葉を交わした娘を見つけ  
る。暫し呆然とする前野。体からは汗が噴き出し、目からは涙が流れ出る。

六人、七人、八人・・すると遂に、ある女の腕を上げた前野が止まる。吸  
い付くように、食い入るように、その女の脇を凝視する前野。それから女  
の顔を凝視する。と、女の片目にも黒い眼帯が。

震える手で、ポケットからナイフを取り出す前野。震える手を押さえるよ  
うにして、女の脇に刃を立てる。前野の唸り。

前野、血に塗れた手に小さな物体を握り、女の脇に汚れたハンカチを被せ  
る。

前野 こんなトコに、ヒトのメダマかくして、あんた、ナニをミテタ？

前野、手にした目玉を掲げて見る。



前野 マツくろコゲ・・・これがホントのメダマヤキ・・・！

前野、その目玉を自らの眼帯の下に押し込む。  
悲鳴を上げ、叫び、嗚咽する。

前野 オレはフネをトメた・・・！トメた、ケド、まだユレてる。アラナミ・・・（女を見下ろし）  
アンタもか？アンタもアラナミか？・・・シンデもまだ、フネはトマラネえのか？

前野、天に向かって吠える。

ゴジ カット！

と、前野以外の人物達は静止する。  
前野は、その場で呆然としている。

ゴジ 前野！

前野、弱く微笑む。  
ゴジ、前野のもとへ行く。

ゴジ 悪い。

前野 うん？

ゴジ お終いだ。

前野 そうか。

ゴジ もう動けなくなっちゃった。1ミリもだ。

前野 そうか。

ゴジ すまない。

前野 次は必ず完成させようよ。

ゴジ お前には八面六臂の活躍してもらったのにな・・・

前野 残念だけど、仕方ないよ。ゴジちゃんは大丈夫だよ。必ず次がある。またチャンスが来るよ。

ゴジ お前は、どうしてそんなこと言うんだよ？

前野 え？

ゴジ 俺は、お前に殴られて当然だと思ってるんだぜ。

前野 そんなことしたら仕返しが怖いもん。

ゴジ はは・・・そうか。

前野 でも、楽しかったね。

ゴジ え？

前野 楽しかったって言葉はあれか・・・

ゴジ うん？

前野 いや、でも楽しかったな・・・完成出来なかったのは悔しいけどさ、面白い映画だったよ。絶対に。俺、自信あるよ。

ゴジ 完成しなきゃ意味がねえ。

前野 うん・・・そうだね。

ゴジ ギャラも払えねえんだ。

前野 そんなの慣れてるよ。

ゴジ 悪い。せめて飯奢らせてくれ。

前野 いいよ。

ゴジ 良くねえ。

前野 そう？じゃあ、お言葉に甘えて・・・

ゴジ カップラーメンで良いか？

前野 え？

ゴジ あれ、旨いよな。十個でも二十個でも、好きなだけ買ってやるぞ。

前野 そんなに食えないよ。

ゴジ 何でだよ？俺は三つ食うぞ。

前野 俺は二つでいいや。

ゴジ よし、決まりだ！

前野 そうだ、ゴジちゃん。

ゴジ うん？

前野 児玉蒼士夫って知ってる？

ゴジ あの胡散臭い爺さんか？

前野 そう言うと思った。

ゴジ 何だよ？児玉がどうかしたのか？

前野 俺さ、あの人の伝記読んだんだよ。そしたら、感動しちゃってさ。

ゴジ ああ？

前野 ゴジちゃんは嫌いだと思うけど、児玉ってさ、凄いだよ。幼い頃に親を亡くして、まだほんの子供時分にだよ、一人で朝鮮に渡ってさ、裸一貫、自分の本当の二本の足だけで生き抜いて来たんだ。

ゴジ ふうん。

前野 凄く強い人間なんだよ。俺とは天と地。正反対。

ゴジ どの道、いかがわしい野郎には変わらねえだろ？

前野 そう言うと思った。

ゴジ 何だよ、お前。本当に尊敬しちゃったのか？

前野 うん、まあね。いつか児玉さんの映画を撮れないかなって思ったんだ。

ゴジ へええ・・・！

前野 興味無いよね。

ゴジ お前の純粋な気持ちを踏みにじりたくはねえけどよ・・・

前野 良いんだ、ちよっと話したかっただけ。

ゴジ 悪いけどな。

前野 ううん・・じゃあさ、一緒に飛ばない？  
ゴジ あ？  
前野 俺さ、飛行機のライセンス取ったんだよ。  
ゴジ 何だつて？飛行機だ？  
前野 うん。  
ゴジ いつの間にだよ？  
前野 ちよつと前に。  
ゴジ 本当かよ？  
前野 俺さ、芝居下手だろう？だから、一つでも出来ることを増やさないとね。  
ゴジ 全くよ・・！お前の行動力には、舌を巻くな。  
前野 そうかな？  
ゴジ ああ。でもよ、飛行機操縦する役なんて、早々回って来ないと思っぜ。  
前野 良いんだよ。とにかくさ、凄く気持ち良いんだから。それに俺、結構上手いんだぜ。  
ゴジ そうだろうな。  
前野 ああ。  
ゴジ じゃあ、いつか乗せてくれよ。  
前野 ああ！いいよ。  
ゴジ 次、映画を完成させたら、祝祭飛行つてのはどうだ？  
前野 それ、いいね！  
ゴジ だったら必ず完成させなきゃな、次は。  
前野 そうだね。  
ゴジ 映画を撮ったぞ！俺達の映画を見る！って、空から叫んでな。  
前野 ああ。俺も叫ぶよ。日本中に叫ぶよ！  
ゴジ ははは。

記者が現れる。

記者 九割方の撮影を終えたところで、「センチメンタル・ジャーニー」はパンクし、幻の映画となった。その後、ゴジは臨時雇いの助監督としてカチンコを叩き、前野は相変わらず売れない役者だった。1971年、日活はロマンポルノの制作を開始する。ゴジと前野は、それぞれの生活を過ごして行く中で、次第に顔を合わせることが無くなって行った。

前野の部屋。

前野とモモが座っている。モモは足をだらしなく斜めに組んで、後ろを向いている。前野は正座で、膝の上に新品の歯磨き粉を握り締めている。

前野 金なら持ってるんだ。  
モモ 幾ら？

前野、革ジャンの内ポケットから、くしゃくしゃの封筒をチラつかせる。

モモ 幾ら入ってるのよ？

前野 今日、給料日だったからな。

モモ 何の仕事？

前野 え？

モモ 何の仕事してんの、あんた？

前野 工場さ。

モモ 何の工場？

前野 関係あるのかよ？

モモ 関係？

前野 いいだろ？そんなこと。

モモ まあね。いいわよ、何だって・・・それで？

前野 え？

モモ お給料は幾らだったのさ？

前野 全部は払えねえよ。色々あるんだ。

モモ ふうん。

前野 当たり前だろう？

モモ、前野に背を向けて、髪を梳く。

前野 なあ、いいだろう？頼むよ、これで。

前野、封筒から慎重に札を二枚取り出す。

モモ、チラッとそれを見る。

モモ 駄目だよ。

前野 どうしてだよ？

モモ それじゃあいつもと変わらない。私はそこからチャージを引かれるんだよ。だったら、いつもの通りだね。

前野 分かったよ。

モモ・・・？

前野 これで全部なんだぜ。

前野、また慎重に封筒からもう一枚札を取り出す。

モモ (手を差し出して) お母さんには内緒だよ。

前野 ああ。(まだ札を掴んでいる)

モモ (前野の掴む札を掴んで) さあ。

前野 (まだ放さずに) ホワイトライオンだぜ。

モモ 分かったよ。

モモ、札を引こうとする。  
前野、指に力を込める。

モモ ねえ、あんた。私は喉が弱いんだよ。今日は特別だよ。

前野 ああ。感謝してる。

モモ だったら、ちゃんと特別料金を払ってくれなくちゃ。

前野 そりゃそうだ。

モモ そうだろう？

前野 ああ。

モモ あんた、まだ払ってないよ。手を放してくれなくちゃさ。

前野 ああ。

モモ 千切れた札は使い物にならないからね。それじゃ払ったことにならないよ。

前野、名残惜しそうに手を放す。

モモ、さっと札を仕舞い、それから前野に向き直る。

前野は俯いている。

モモ どうしたのさ？

前野 うん・・男はさ、本当は五千円持つてるって、分かるかな？

モモ え？

前野 だからさ、本当の給料は五千円で、封筒の中にも五千円入っているんだけど、女には三千元って嘘を言っただけで、中には実はまだ二千あるんだよ。

モモ そんなこと書いてあるの、台本に？

前野 書いてないよ。俺が考えたんだ。

モモ じゃあ分からないんじゃない？

前野 そうか・・じゃあやっぱり、一度女に見えない位置で五千を数えて、二千をすつと隠すって芝居が必要だな。

モモ そんなこと言ったって、カメラの位置が分からないじゃない。

前野 そうだけども・・

モモ あのね、そんなの必要じゃないと思うよ。

前野 どうして？

モモ だってね、監督は、やつちゃんじゃなくて、桜純子を撮りたいんだから。お客さんも、桜純子が見たいんだから。

前野 知ってるよ、それは。

モモ 可哀相だけどもね・・

前野 だけども、桜純子が十人の男に買われるのなら、男達も十人十色でなくっちゃいけないだろう？それぞれさ、個性が必要なんだよ。それが芝居だろう？俺が演じるこの「客6」はさ、俺はケチな男にしたいんだよ。新婚でさ、真面目で、臆病な男。真面目であるが故にケチなんだな。この後、男は葛藤するわけだよ。ああ、どうしよう。今月は二千円でや

らなくてはならない、俺は良いが、女房が可哀相だ。残りの三千円をどうしたと言おう？  
ドブに落としたじゃ嘘臭いつてね・・

モモ その、客6の葛藤のシーンはあるの？

前野 無いよ。ある訳がないだろう？

モモ でしょ？

前野 何だよ？駄目かよ？

モモ 駄目じゃないよ。駄目じゃないけどね・・

前野 けど、何？

モモ 必要ないよ。

前野 どうしてだよ？

モモ だって、そんなの、やっちゃん以外の人には分からないから。

前野 そうさ。でも、俺が演じる上で必要な設定なんだよ。

モモ なら、良いんじゃない？

前野 余計なこととして、目立ちたい訳じゃないんだよ。ただ、ちよつとでも良いシーンにしたいんだ。それにはさ、分かる分からないじゃなくて、説得力のある人物でないと。

モモ そうだね。

前野 ・・・

モモ 何？

前野 思っていないだろう？

モモ 何が？

前野 そうだねって。

モモ 思ってるよ。

前野 本当かよ？

モモ 本当だよ。映画としては必要ないけど、やっちゃんにとっては必要で、だからやっちゃんが出演するシーンだから、つまりそのシーンにとっては必要で、結果、やっぱり映画にとっても必要になるんだよね？それによって、お客さんにはこれとは分からないけれど、分からない何か説得力が生まれるんだよね？

前野 そう。

モモ ほら。分かってるでしょ？

前野 うん。

モモ 思ってもいるんだよ。

前野 何て？

モモ そうだねって。

前野 本当かな・・

モモ 何よ、疑り深いのね。

前野 だってさ・・

モモ ねえ、やるの？やらないの？

前野 だから、リン酸カリウム入り、真っ白い歯の為のホワイトライオンをぶくぶくに泡立てて  
だな、たっぷり三千円の元を取るんだよ。

モモ そうじゃなくて、今！私達！

前野 ・・ああ！やるさ！やってやるさ！

前野、勢い良くモモに被さる。

モモ ねえねえ。

前野 何だよ？

モモ 赤ちゃんが出来たみたい。

前野 赤ちゃん？

モモ うん。

前野 俺達の？

モモ 他に誰がいるの？

前野 ・・本当？

モモ 本当よ。

前野 ・・そうか。

モモ 嬉しい？

前野 うん・・けど、ちゃんとしなくちゃな。

モモ ちゃんと？

前野 だって、親父になるんだろう？

モモ そうだよ。

モモ、前野のズボンの中に手を入れて股間を握る。

モモ 温かいよ。

前野 うん？

モモ 柔らかい。

前野 なあ？

モモ うん？

前野 結婚しようか。

モモ うん。立派なパパになってね。

前野 うん。

モモ その前に、明日上手く出来るといいね！

前野 ああ！俺はな、「客6」よりも真面目だぜ！

モモ 知ってるよ！

前野 硬くなって来ただろう？

モモ ケチと几帳面は違います！

前野 母の言葉！

二人 ホワイトライオン♪

二人の哄笑と共に溶暗。

闇の中、表を行進するデモ隊のシュプレヒコールが近付いて来て、シュプ

レヒコールの盛り上がりで男女の声が呼応し出す。  
そして・・・「カット！」  
明かりが点くと、前野が女優1の上に被さった状態で静止している。  
二人の口は歯磨き粉で泡立っている。  
デモの隊列は相当に長いようで、今正に中央部辺りが通過中。  
「命よりカネ！資本主義・犯罪企業を弾劾する！」等と言う声が響いてい  
る。

監督 オッケー。

女優1、乱れた着物をサツさと直す。

助監督、二人にタオルを渡しに駆ける。

助監督 前野さん、余計な芝居しないで下さいよ。尺取るじゃないですか。

前野 悪い・・・

助監督 分かりますよね、何を撮ってるか？ガヤにゴチャゴチャされちゃ邪魔なんですよ。

前野 キツイこと言うな・・・

助監督 当たり前じゃないですか。編集で繋がりますが、時間無いんだから頼みますよ。

前野 (女優1に) すみません。

女優1 良いじゃない。

前野 え？

女優1 怒れ、怒れ。大いに怒れよ。

前野 ……？

女優1 あたしね、怒りって、人間が人間たる上で一番大切なエモーションだと思うの。

前野 はあ・・・

女優1 これを無くしたらお終いよ。権力にペチャンコにされちゃう。ペチャンコにされた後は

どう？雨が降って、流されて、海のアブクでバイバイよ。

前野 そうですね。

女優1、窓を開ける。シュプレヒコールが飛び込んでくる。

女優1、拳を振り上げる。

前野、小さく頭を下げ、監督のもとへ行く。

前野 すみませんでした。

監督 オッケーだよ。

前野、頭を下げ、奥へ下がる。

監督 (助監督に) カッカすんなよ。

助監督 だって・・・



監督 彼は下手だけど、良い役者だよ。

助監督 え？

監督 真面目だよ。

助監督 そうですか？

監督 自分の芝居に責任を取ってる。

助監督 はあ・・

監督 可哀想だけどな。

助監督 え？

監督 もう一回やらせてやりたいが、時間がねえんだ。そうだろ？

助監督 はい。

監督 はい、次！

助監督 はい・・シーン26「光子の発疹」！

監督 うがいさせてやれ、うがい！もう飲んじまったか？吐き出せよ、全部！

女優1 命を返せ！良心を取り戻せ！倫理と正義を踏みにじるのか！断固、団交を要求する！恥

知らずの禿げ面共よ、逃げ回ってないで席に着け！民衆が審判を下す時が来た！

デモ隊 おおおお！

助監督、女優1を促しに行き、

助監督 (デモ隊に向かって) ご苦労様です！

と叫び、窓を閉める。

デモ隊 おおおおお！

前野の実家。

父、母、前野が、食卓で夕飯を食べている。

母 夕方、せつちゃんのお母さんに会ってね・・

父 せつちゃん？

母 節子ちゃん。ほら、お豆腐屋さんの・・

父 ああ、娘さんか。

母 ヤスより二つ下よね？

前野 そうだったかな？

母 結婚したんですって。

父 へええ。そうかい。

母 銀行に勤めてたでしょう？お相手も同じ銀行の人らしいんだけど、ヤスと同級生みたい。

父 へええ。

母 優秀みたいだね、今度神戸の支店長になるとかで、引越すんですって。

父 それは優秀だねえ。



母 分ります？

父 そりゃ違うだろう。魂がさ、全然違うよ。

母 でも、スーパーマーケットの方が安いですよ。

父 それはそうかも分らないけどね、職人のさ、命と技術が詰まってるだろう。

母 でも、うちもたまに買ってるんですよ。

父 え？

母 スーパーマーケットでね、お豆腐やら。

父 そうなのか？

母 ええ。分かります？

父 何が？

母 違いが。

父 そりゃ分かるよ。同時に食べれば。

母 同時に食べればでしょう？

父 何だ？

母 いえね、つまり、その程度なんですよ。

父 何が？

母 違いがですよ。

父 それは大きな違いだよ。

母 そうですか？

父 当たり前だよ。

母 でも安いですよ。同時に食べることで無いですか？だから、ついつい買っちゃ

父 ますよ。

母 それはいけないね。

父 いけないですか？

母 信頼関係って意味でもいけないよ。

父 信頼関係？

母 商売屋としてさ、昔から苦楽を共にして来たじゃないか。

父 ええ。だから、お豆腐屋さんの前を通る時は、お豆腐を一番下にしていますよ。だからち

母 よつと割れてるでしょう？

父 何だよ、それは？泥棒みたいじゃないか。

母 面白くないでしょう、お豆腐が見えちゃ？

父 そりゃそうだよ、当然さ。

母 でもね、八百屋さんの前を通る時は居たたまれませんよ。どうしたって、大根が見えちゃ

父 うんですから。

母 大根なんて買うもんじゃないよ。

父 悪いなっと思うんですけどね。

母 まずいだろうよ、大根は。

父 ええ。でも、豆腐や大根だけでなく、何もかもそうなって行くんでしょうね、いずれ・

母 私は嫌だね。

父 私だって嫌ですよ。でもね、「安くて便利」。これにはかないませんのよ。

父 移り気だね、女は。  
母 嫌だ。何です、それは？

前野 ご馳走様。

母 お代わりしないの？

前野 うん。あんまり食べると動けなくなるから。

母 そう。

父 アルバイトか？

前野 うん。

父 アルバイトっていうのは、何処の言葉だったかな？

前野 え？

父 ほら、英語じゃないんだろう？

前野 うん。ドイツ語だったと思うよ。

父 ふうん。

前野 でも、ドイツ語で言うアルバイトと、日本語で言うアルバイトはちよつと違うみたいだけ  
どね。

父 そうなのか？

前野 ドイツ語の方は、ちゃんとした仕事を指すみたい。

父 ちゃんとした？

前野 つまり、正規労働だよ。日本では、非正規労働でしょ？

父 ほう。

前野 誰かが誤訳したんだろう？

母 違うのね。

前野 僕がこれから行くのは、日本語の方のアルバイト。せつちゃんや、せつちゃんの旦那は、  
ドイツ語の方のアルバイト。

母 なるほどね。

前野 行って来ます。

母 今日はこっちに帰って来るの？

前野 アパートに帰るよ。

母 そう。気を付けてね。

前野 うん。

前野、出て行く。

父 上手いこと言うな。

母 え？

父 ヤスが行くのは、日本語のアルバイト。

母 ええ。

父 いい加減、ドイツ語の方のアルバイトになって欲しいがね。

母 そうですね。

父 あ、それで豆腐は？

母 え？  
父 豆腐は買って来なかったのか？  
母 ああ、ありますよ、二つ。割れてるのと、その後せつちゃんところで買ったのと。  
父 二つも食い切れんよ。  
母 ちようど良いじゃないですか。食べ比べましょう。  
父 何だよ、それは？

母、台所へ下がる。  
父、テレビを点けると、ブラウン管から記者会見と思われる模様が流れてくる。

「七年前の明治百年記念式典の際に、陛下は、「わが国が近代国家としてめざましい発展を遂げたことは誠に喜びに堪えない」と仰せになりました。この度、初めての訪米を終えられて、敵国でありました米国の地を踏まれ、また米国民と接せられて、一方で、焦土の中から立ち上がり、見事な復興を成し遂げた日本国民に対して、改めて思うこと、お言葉が御座いましたら、是非お聞かせ頂きたいと存じます・・・」

記者が現れる。

記者 1976年、昭和51年、2月4日、アメリカ上院外交委多国籍企業小委で、ロッキード社の売り込み工作が明るみに出る。同社の会計管理を担当しているウィリアム・フンドレーが、日本での航空機売り込みの為、三十億円を超える金が使われ、うち二十一億円は、右翼政治家、児玉誉士夫に渡ったと証言した。同小委は、証拠として、「ピーナッツ百個を受け取った」と記された領収証などを公表した。翌2月5日の朝刊でこれが報じられ、日本中は怒りと驚きと混乱に沸き立ち、戦後史に刻まれる大疑獄事件の幕開けとなった。ロッキード事件発覚から約一月半が経った、三月二十二日、午後九時。

電話が鳴る。

八尾 はい、もしもし。  
前野 もしもし。前野です。  
八尾 やあ。君か。  
前野 夜分にすみません。先日お話ししました映画のスチール写真の件ですけど・・・  
八尾 ああ、あれね・・・  
前野 明日は、ご都合いかがですか？  
八尾 明日？  
前野 ええ。天気が良いみたいなので、明日飛びたいなと思ひまして・・・  
八尾 また急だね。  
前野 すみません。  
八尾 別に、構わないけど。

前野 そうですか。良かった。  
八尾 何時？

前野 午前中に飛びたいので、八時に調布飛行場でも良いですか？  
八尾 分かったよ・・それで、内容は、この間言っていた通りかな？

前野 ええ。僕が一機に乗りますので、八尾さんはもう一機に乗ってもらって、編隊飛行で撮影して下さい。

八尾 うん。分かったよ。

前野 また明日、飛ぶ前に少し打ち合わせをさせて下さい。

八尾 そうだね。

前野 僕は兵隊の役なので、衣装を持って行きます。

八尾 うん。

前野 はい。では、宜しくお願いします。

八尾 うん・・あ、そうだ・・

前野 はい？

八尾 あそこって、蟻が多いんだよね？

前野 蟻？

八尾 うん。明日、見てご覧。足許に一杯蟻が這ってるから。

前野 そうなんですか。

八尾 まあ、関係ないけどね。

前野 ええ。

八尾 それじゃあ、明日。

前野 はい、明日。夜分にすみませんでした。

前野、電話を切る。

モモ やっちゃん、行かないで。

前野、振り返る。

モモ やっちゃん、行っちゃ駄目だよ。

前野 モモ・・どうしたんだよ？

モモ 会いに来たんだよ。

前野 元気にしてたか？

モモ どうにかやってるよ。

前野 赤ん坊は？

モモ もう赤ん坊じゃないよ。

前野 そうか。大きくなったか？

モモ もう走るよ。

前野 そうか。

モモ ちゃんと生きてるよ。

前野 うん。  
モモ ねえ・・  
前野 なあ、「センチメンタル・ジャーニー」覚えてる？  
モモ え？  
前野 粉々に吹っ飛んだゴジちゃんの映画。  
モモ 忘れられないよ。  
前野 あれ、滅茶苦茶だったけどさ、やっぱり凄い映画だったと思うよ。やっぱりゴジちゃん  
は凄いよ。  
モモ そうなの？  
前野 俺、ずっとショーンの代役やってただろう？  
モモ うん。  
前野 ラストシーンでさ、原発が爆発して、放射能を浴びた人々が浜で死んで、その時初めて  
ケンには気付くんだよ。死者達も、母親も、みんな片目だって。片目であることに気付  
かず生きて来た人々が、片目のまま死んで行く。ケンは自分の目を取り戻すけど、そ  
れでも船は止まらない。  
モモ 絶望的だね。  
前野 そう。恐ろしいよ。あの時は夢中でやってたから気付かなかったけどさ、今思うと、ゴ  
ジちゃんはこのこと考えてたんだって・・今頃感心しちゃったよ。  
モモ 関係あるの？  
前野 え？  
モモ ゴジの映画と、やっちゃんが行くのと。  
前野 関係ないよ。  
モモ 本当？  
前野 多分・・  
モモ ・・  
前野 モモ、俺はどこまでも駄目な人間だな。独りよがりで、結局自分が中心なんだ。  
モモ 分かってんじゃない。  
前野 約束だって守れない。ごめんな。  
モモ 謝らないで。謝るくらいならしないで。  
前野 ごめん。  
モモ やっちゃんは、いっつも謝ってばっか。

と、前野、滑り台を駆け上がる。

前野 (あどけない笑顔を見せ) モモ！俺はね、憧れていたんだよ。俺にはね、夢があったん  
だよ。ガキの頃は、スキージャンプの選手になりたかった。飛ぶんだぜ。あんなに大き  
く、長く遠く。その瞬間、世界は俺のものだ！風に乗って、恐怖と快感に揺さぶら  
れてさ。気持ちいいだろう？それに、凄く格好良い。いっつも公園の滑り台で真似した  
っけ。楽しかったな。夢中だったよ。中腰になってさ、駆け降りるんだ。それで最後  
にぐっと背中を伸ばして前に向かってジャンプする！まだ終わじゃないんだ。最後

が肝心なんだ、着地のポーズが。両手を上げて、もう一度腰を落として沈み込む。それから、ガッツポーズだ。前野、K点を超えました！って叫んでさ・・・でも分かるだろう？ そんなんじや、あんまり飛べないんだよ。あの頃は気がつかなかったけどね・・・あいつに言つてやりたいよ、あの頃の俺に。ヤス、飛びたいんならな、本当に、うんと飛びたいんならな、階段を駆け上げれ。それからそのまま、勢いに乗って天辺からジャンプしろ！そしたらもつともつと、うーんと飛べるぞ。きつと気持ちいいぞ。その時、世界はお前のものだ！

いつからか、飛行機のエンジン音が高まっている。

前野 連絡しないで申し訳ありません！天皇陛下、万歳！

記者 本日三月二十三日、午前九時五十分、東京世田谷の、今正に日本中の注目を集めている児玉蒼士夫邸に、小型セスナ機が突っ込みました！これは事故なのでしょうか？テロなののでしょうか？渦中の児玉氏は在宅していたのでしょうか？二階部分が大きく陥落し、突っ込んだ飛行機は黒い炎を上げて燃えています！パイロットの安否は絶望的と思われれます！

「七生報国」と記されたハチマキを額に巻いて、特攻服姿の前野が現れ、敬礼する。

記者 今、速報が入りました！児玉氏は、在宅していたようです！しかし、素早く避難し、慥

我は無いとのこと！お手伝いの女性が軽い怪我をした外に、怪我人は無しとのことです！飛行機のパイロットは即死！パイロットは即死です！騒然としています！現場は騒然としています！あ、今、少女が・・・！少女がですね、飛行機の横に、まだ煙の立ち昇る飛行機の脇にですね、花を、花束を手向けているようです！

前野 眼の中に、今僕の眼の中で、色んな色の小さな光の粒が弾けています。幼い頃、公園の滑り台を駆け下りた時、確かに見ていたこれは、そう・・・万華鏡。僕の眼は万華鏡・・・

記者 おーい！・・・僕は、此処に居ます。

母 息子さんと最後に会ったのは、いつですか？

記者 その時の息子さんの様子は？

母 いつも通りです。明るい顔して・・・

記者 変わった様子は？

母 ありません・・・だから、本当に信じられなくて・・・

記者 事故だと思いませんか？

母 事故でしょうね・・・私には、事故としか思えません。

記者 あれが、事故ですか？

母 ・ ・ ・

記者 確かな意思があったように見えますか？

母 ・ ・ ・



記者 お聞きになりましたよね？残された無線を？  
母 事故です。本当に、そうとしか思えないんです。  
記者 分かりました・・・では、飛行場までは電車で行ったのですか？  
母 ・・・  
記者 どうして車じゃなかったのでしょうか？いつもは車で行かれていたんですよね？  
母 分かりません。  
記者 車の運転がとてもし上手で、よく乗っていたそうじゃないですか。それに、自宅から行くには、あの時間でしたら直線距離で二十分。車の方が都合が良い筈です。ご主人が使われていたとか？  
母 さあ・・・  
記者 朝早く、荷物も持って、調布までは車で行こうと、普段の息子さんでしたら、当然そう考えるのではないのでしょうか？  
母 そうかもしれません・・・  
記者 車で行っても、乗って帰って来れないからだったのではないですか？  
母 分かりません・・・  
記者 息子さんは、お父さんの考え方については、どう言っていたのですか？  
父 考え・・・？それは、お父さんの考えは古いと。  
記者 古いとは、つまり？  
父 古いと言うのはね、我々はやっぱり明治の人間だから、どうしたって天皇が中心になるんですね・・・  
記者 天皇・・・？  
父 そういった考えでは、今の本当の姿を見ていないといつかね・・・今のというのは、今の世の中といつかね・・・  
記者 そう言ったんですか？息子さんが？  
父 そんなようなことをね・・・だからってね、お父さん達が間違っていたとか、否定するってわけでもなくてね、それは仕方ないのだけど、今はもうそんな考え方をしているとはいえないと・・・  
記者 ほう・・・？  
父 こうも言っていました。お父さんがお祖父さんの息子であるように、僕もお父さんの息子だから、どうしたって同じ血が流れている。血は続いている。それを断ち切ることは出来ないし、したくもないとね・・・  
記者 では・・・？  
父 彼は最後まで、ちゃんと足を開いて二本の足で立てなかったのかもしれない。しっかりと真つ直ぐに地面に立ちたいけれど、地面がね、揺れているんだか、ふわふわ覚束ないんだか、沈んでしまうと・・・度々言っていましたんで。  
記者 地面が、揺れていると・・・  
父 道のことなのかな？人々が歩いて来た、生きて来た・・・我々が作って来たね・・・  
記者 ほう・・・  
父 当時は、彼も幾ばくか、何事かをね、悩んでいるんだなと思った程度で、深く受け止めなかったんだけど、今思えば、あれは私達のことだったのかもしれないね。

記者 お父さん達のことですか？

父 何となくね、分らないけどね・・・やっぱり、まるでね・・・

記者 でも彼は、大地ではなく、空に向かいましたね？

父 ・ ・ ・

記者 俳優・前野霜一郎、本名・前野光保。「右翼か？」「甘やかされたボンボンポルノ俳優の短絡的且つ人騒がせな自殺」「児玉との心中を図ったか？」「売れない役者が最後に演じたのは特攻隊」

上空を旋回していたヘリコプターの音が止む。

モモとゴジがベンチに腰掛けている。

モモ、水筒を開けて、紅茶を飲む。

ゴジ やっぱり寒いだろう？

モモ 魔法瓶なのよ、これ・・・ほら。

ゴジ え？

モモ 湯気が立ってる。

ゴジ 本当だ。

モモ 貴方は？寒いのか？

ゴジ 少しな。

モモ 年取ったのね。

モモ、水筒のコップを差し出す。

ゴジ、首を振る。

モモ あの人、海なんかじゃなくて、そこら辺の綺麗じゃない川を泳いでいて、時々誰かが投げ捨てた空き缶か何かが頭に当たって・・・そんな風にして泳いでいるんじゃないかって思うわ。

ゴジ 泳いでる？

モモ いったったか、あの人が魚になって、海に消えて行く夢を見たのよ。

ゴジ 寒いな。

モモ え？

ゴジ 川でも海でも。

モモ それに暗いわ。

ポツ、ポツと、雪が降って来る。

モモ あ・・・

ゴジ ああ・・・

モモ 嫌いじゃないわ。

ゴジ うん？

モモ 雪の匂い。  
ゴジ ああ。  
モモ もう帰らなきや。  
ゴジ ああ。

モモ、水筒を仕舞ってベンチを立つ。  
ゴジは動かないでいる。

ゴジ なあ。  
モモ うん？  
ゴジ あいつは死んじまったんだな。  
モモ そうね。  
ゴジ 俺、今初めて口にした。  
モモ うん？  
ゴジ 前野が死んだって。  
モモ やっちゃんは死んだ。  
ゴジ ああ。  
モモ 魚になって、泳いで行った。暗くて寒くて綺麗じゃない川に。  
ゴジ 時折、頭に唾を吐かれてか？  
モモ それでも、泳ぐのを止めないで欲しいわ。  
ゴジ ……  
モモ さようなら。  
ゴジ ああ。

モモ、去って行く。  
ゴジは煙草を取り出すが、ライターの花が点かない。  
もう片方のポケットに手を突っ込むと、ドングリが当たる。  
それを取り出して、地面に放る。  
アイススケートを滑るように、転がって行く。